

西益田地区						
No.	分野	地区別	質問・意見・要望等	議員と語ろう井戸端会議当日の議員回答内容	後日担当課回答	担当委員会
1	地域交通	西益田	バスの減便は致し方ないと思うが、廃止は大変なことになる。	現在、廃止の報告はない。		総務文教
2	地域振興	西益田	人口減少対策は。	定住・教育・子育て・観光・交通インフラ・ファクトリーパークなど総合的に進める必要がある。益田市は独自の取組みとしてひとつくり協働構想の中で取り組んでいる。		総務文教
3	学校教育	西益田	平成28年、西益田地域づくりの会と西益田地区連合自治会は「横田町のサン電子跡地の有効利用について多目的交流センター（公民館センター併設）の新設をお願いします」と議会へ請願したところ、全会一致で採択された。ところが、市教委は西益田地区拠点整備として、横田中学校へ併設するとして本年度当初予算に基本設計委託料を計上している。 西益田地域づくりの会と西益田地区連合自治会は、請願通りに市有地であるサン電子跡へ公民館を建設してほしいと要望を続けてきた。特産品販売も計画しており、国道9号から出入りしやすい地でなければ目的が達成できない。しかも中学校敷地は低地なため、度々水びたしになる。せっかく建てるなら、50年60年先を見通して地元が喜ぶものを作ってほしい。 真砂や豊川のように公民館を学校の敷地内に、なぜ建てなければいけないのか。西益田地区は豊川や真砂地区とは地域の広さや人口規模が違う。西益田でなぜ学校と公民館を一体化しなればいけないのか、サン電子跡ではなぜいけないのか。回答を求めているが、1ヶ月経ても市教委から返事がない。敷地内には公営住宅や駐在所もあり、近くには養護学校や中学校もあり、いろいろな交流ができる。	教育委員会は学校を核としたまちづくりとして、豊川や真砂同様、学校敷地内へ新設する考えだが、議会としては請願を採択しており、要望を真摯に受けとめ、何らかの対応をしていかなければと思う。	平成28年8月22日付けで益田市議会議長宛てに、西益田地域づくりの会・西益田地区連合自治会から請願書が出され、同年9月議会において採択された。 一方、同年12月に益田市公共施設総合管理計画が策定され、施設の長寿命化の推進、既存施設が多機能化、集約化・複合化により「総量の適正化」を図ることとした。 また、教育委員会として児童生徒数の急激な減少傾向も踏まえ、今後の学校のあり方の検討を有識者会議で進めることとした。その中では、学校施設の耐震化工事を急務とする一方、今後の学校と地域のあり方を議論し、平成30年12月に「今後の小中学校のあり方に関する基本指針」を策定、令和2年2月「今後の小中学校のあり方実現に向けた実施計画」及び「益田市学校施設整備計画」を策定し、学校の再編計画とともに、学校教育と地域づくり、ひとつくりを行うべく「学校を核とした地域づくり」を進めることとした。 この中で、地域に存在する公民館や地域自治組織の拠点、子どもの放課後における適切な遊び及び生活の場として提供している放課後児童クラブなど地域に存在する機能を集約した地域コミュニティの核(小さな拠点施設)として、学校をはじめとした教育施設を整備することとした。 こうした視点のもとで、真砂公民館、豊川公民館は既存の学校とともに一層の地域づくりの観点から複合化による施設整備に至ったものであり、この考えのもとで、豊田公民館についても学校施設に隣接させ、複合化の視点も取り入れながら西益田地区の拠点として整備することとしている。	総務文教
				【総務文教委員会としての回答】 このことについて、委員会で議論した結果、採択時とは情勢も大きく変わっていることから、建設場所については、行政の方針を基に市と地元が合意形成を図る中で決定して行くことが望ましいと考える。		総務文教
4	産業経済	西益田	子どもの就職先がない。給与が少ない。3番目の子どもも益田から出ると言っているので、若者が戻って来れるような会社が欲しい。若者がいなくなることで、地域の行事ができなくなっている。	今後の活動に活かすこととした。		経済建設
5	農林水産	西益田	森林環境税の活用について。おおずえ里の森保全の会で里山の維持を行っているが、市がお金を出さないから県も出せないで国の補助金だけでやっている。お金の使い方が間違っているのではないか。業者や木の駅に使われているが市民活動にもっと使うべきではないか。	持ち帰って確認する。	令和5年度の森林環境税の用途としては、森林境界確認業務（久々茂町・大谷町：180ha）や、民有林整備のための作業道開設や再造林に対する補助、高津川流域材の利用促進に係る補助、森林環境学習に対する補助など、林業事業推進に向けた活用をしており、市公式ウェブサイト農林水産課のページにて使用状況を公開している。 今後も、林業振興に効果的な施策を調査研究していきたい。	経済建設
6	空港	西益田	益田市の空港利用促進負担はいつまで続くのか？飛行場の活用策として自衛隊の備蓄基地誘致を益田市議会は全会一致で決議したがその後はどうなったのか？	2便継続のため、議会は県や市とともに国やANAへの陳情を重ねている。備蓄基地については現状の取組を確認する。	空港利用促進負担金は、萩・石見空港が地元自治体支援がなくとも運営継続がなされる状況になるまで支援を続けたいと考えている。 備蓄基地については、島根県、運航事業者ANA、萩石見空港利用促進協議会（益田市を含む地元市町等）の三者の共同により、国土交通省の羽田発着枠政策コンテストにおいて東京線の利用者を増やす取組みや活用を提案している状況であるので、自衛隊の備蓄基地誘致は、施策上合致しておらず、誘致できかねる状況である。	経済建設
7	土木	西益田	梅月線の道路改修について、6月に市長要望で良い回答をもらった。令和6年11月27日からやるので地元も協力してとのこと。	今後の活動に活かすこととした。		経済建設
8	土木	西益田	市道に木が覆いかぶさっている。伐採をお願いできるか。	持ち帰って確認する。	伐採については民法上、山林等の所有者の対応となるが、一方で道路の通行に支障がある場合は緊急的に道路管理者で必要最低限の伐採を行う。	経済建設
9	土木	西益田	小俣賀の部分改良工事の件。令和6年2月に要望している、1,000万かかるので難しいと部長に言われたが、業者に聞いたら400万円でできると言われた。	持ち帰って確認する。	市道多田角井線である。水路の断面積が大きい上、水路が倒れないように土留め材等を併用した特殊な工法を見込んでいるので、相当な事業費を要す見込みである。 市内全域の多数の道路改良事業の進捗状況を勘案し、令和7年度以降、年次的な整備を行う。	経済建設
10	農業土木	西益田	石見臨空ファクトリーパーク近くを走る西益田道路建設事業は国が着々と進めているが、白上IC（仮称）と国道9号を結ぶアクセス道の整備が急がれる。県道313号や県道311号、大型農道を整備して大型車に対応できるようにしないと、企業誘致や活動に支障が生じる。	県と市の見解を確認する。	石見臨空ファクトリーパーク及び白上IC（仮称）と国道9号を結ぶ主なアクセス道路については、ご指摘のとおり県道美濃地石見横田停車場線(県道313号)及び県道白上横田線(県道313号)となっているが、いずれの路線も急勾配、急カーブや狭隘な箇所が存在している状況である。 市としても、交通安全や産業振興に資する道路整備の必要性について認識していることから、地元自治会等で組織された同盟会と連携し県へ働きかけを行っていきたい。	経済建設

11	地籍	西益田	地籍調査をお願いしてできるものか。	山陰道優先で進めている状況。	益田市の令和5年度末時点での地籍調査の進捗率は13.78%であり、進捗率が上がりにくい理由としては、県内最大の面積を有することや、地籍調査事業への着手が平成8年度と遅れたことに起因する。 本市としては、公共事業の円滑化や、防災対策および災害時の迅速な復旧・復興を図るために災害想定地区などを優先的に実施しているところである。 上記の取組方針を踏まえ、広大な面積を有する山林部の調査に関しては、安全で効率的な調査の推進を目指し、令和6年度から、新手法である「航測法による地籍調査（リモートセンシングデータ活用型）」に着手したところである。 今後は、従来の「地上法による地籍調査」と並行して実施することで、さらなる進捗率の向上を目指していきたい。	経済建設
12	建築	西益田	安富町の国道沿いでも空き家が目立ち、小動物の棲み家となり、近所迷惑。看板や瓦が飛び、通学路となっている歩道も危ない。所有者が死亡し、相続放棄されれば、地元としては対応のしようがない。 大田市で特別措置法による空き家の撤去を行ったと聞くが、益田市の対応はどうか。	法律の問題がある。通学路であれば可能かもしれない。執行部に現状を伝え、対応についての回答を求める。	相続放棄等により相続人が不存在の空き家について何らかの措置を行おうとする場合、空家特別措置法や民法等の法律に基づき措置を行うこととなる。よって、危険度や周囲への影響など空き家の状況により、行政において措置を行う必要があるかどうかを総合的に判断する必要がある。 例えば、通学路沿いでこのまま放置すれば倒壊等の危険が高く、通行人など第三者に被害を与える危険性が切迫しているなど、行政において措置を行う必要があると判断した場合は、法律に基づき解体等の措置を行うこともある。	経済建設